

SECカーボン

2023年3月期 第2四半期決算説明資料

2022年11月11日

■ 2023年3月期 第2四半期決算	P. 2
■ 2023年3月期 通期見通し	P. 6
■ 現行中計の概要（第8次中期経営計画：2021～2023年度）	P. 10
■ （参考資料）会社概要	P. 20

2023年3月期 第2四半期決算

連結損益比較

売上高については、世界経済の持ち直しを背景として、特にアルミニウム製錬用カソードブロックの販売が好調であり、増収となった。

各利益については、原燃料価格、電力料金等の上昇によるコストアップ要因はあったものの、販売数量の増加や為替レートが円安に推移したことによる輸出の収益性改善により、増益となった。

単位：百万円	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	増減額	増減率
売上高	9,765	12,518	2,753	28.2%
営業利益	1,301	2,344	1,042	80.1%
経常利益	1,448	3,041	1,593	110.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,008	2,136	1,127	111.8%
為替レート（円/USD）	109.79	133.17	23.38	

製品別売上高比較

単位：百万円	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	増減額	増減率	増減理由
アルミニウム製錬用 カソードブロック	4,703	7,410	2,706	57.5%	更新需要堅調により、販売数量増加
人造黒鉛電極	3,380	3,112	▲ 267	▲ 7.9%	国内外の粗鋼生産低迷により 販売数量減少
特殊炭素製品	1,237	1,569	332	26.9%	全般的に需要堅調
ファインパウダー 及びその他炭素製品	443	424	▲ 18	▲ 4.1%	一部顧客にて、中国の経済活動抑制の 影響のため、販売数量減少
合計	9,765	12,518	2,753	28.2%	
国内	40.6%	33.2%			
輸出	59.4%	66.8%			

連結貸借対照表 及び 連結キャッシュフロー計算書比較

連結貸借対照表

単位：百万円	2022年3月期 末	2023年3月期 2Q末	増減額
流動資産	44,095	47,430	3,335
現金及び預金	22,438	24,248	1,810
受取手形及び売掛金	6,890	6,376	▲ 513
棚卸資産	14,502	16,485	1,983
固定資産	18,512	19,255	743
有形固定資産	9,245	9,003	▲ 241
投資有価証券	9,010	9,980	970
資産 合計	62,608	66,686	4,078
流動負債	4,183	5,601	1,418
買掛金	2,315	3,428	1,113
未払法人税等	478	921	442
固定負債	2,361	2,623	261
負債 合計	6,544	8,224	1,680
純資産 合計	56,063	58,461	2,398
利益剰余金	40,990	42,720	1,730
負債純資産 合計	62,608	66,686	4,078
自己資本比率	89.5%	87.7%	▲ 1.8%

連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	増減額
現金及び現金同等物の期首残高	16,385	22,188	5,803
営業活動によるCF	5,205	2,552	▲ 2,653
税金等調整前当期純利益	1,442	3,029	1,587
減価償却費	570	539	▲ 31
売上債権の増減額	1,784	513	▲ 1,270
棚卸資産の増減額	449	▲ 1,983	▲ 2,432
仕入債務の増減額	617	1,113	496
法人税の支払、還付額	774	▲ 445	▲ 1,220
投資活動によるCF	▲ 566	▲ 308	258
有形固定資産の取得	▲ 515	▲ 253	261
財務活動によるCF	▲ 413	▲ 412	1
配当金の支払	▲ 406	▲ 406	▲ 0
現金及び現金同等物の期末残高	20,603	23,998	3,395
現金及び現金同等物の期中増減額	4,217	1,810	▲ 2,406

2023年3月期 通期見通し

2023年3月期 通期連結業績予想

売上高については、アルミニウム製錬用カソードブロックの販売数量増加、円安による輸出製品の販売価格上昇により、前期実績を上回る見込みである。

各利益については、原燃料、電力料金等のコストアップ要因はあるものの、販売数量増加、円安による輸出の収益性改善により前期実績を上回る見込みである。

単位：百万円	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	22,919	30,900	7,980	34.8%
営業利益	3,222	5,500	2,277	70.7%
経常利益	3,779	5,900	2,120	56.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,039	4,000	960	31.6%
為替レート（円/USD）	112.89	131.05	18.16	

※2023年3月期第3四半期以降の為替レートは、1ドルにつき130.00円で算出しております。

2023年3月期 通期連結売上高予想

特に、アルミニウム製錬用カソードブロックの更新需要が堅調であり、前期実績を上回る見込みである。

単位：百万円	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減額	増減率
アルミニウム製錬用 カソードブロック	12,332	18,476	6,143	49.8%
人造黒鉛電極	6,604	8,003	1,398	21.2%
特殊炭素製品	3,040	3,638	597	19.6%
ファインパウダー 及びその他炭素製品	941	783	▲ 158	▲ 16.8%
合計	22,919	30,900	7,980	34.8%
国内	34.8%	28.7%		
輸出	65.2%	71.3%		

参考指標（連結）

		2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 2Q	2023年3月期 予想
設備投資	(百万円)	1,726	2,412	1,578	502	322	1,596
減価償却費	(百万円)	1,311	1,607	1,473	1,201	539	1,327
研究開発費	(百万円)	67	121	151	260	198	424
有利子負債	(百万円)	-	-	-	-	-	-
金融収支	(百万円)	192	256	225	262	218	331
売上高	(百万円)	37,935	35,136	21,299	22,919	12,518	30,900
海外売上比率	(%)	61.2%	62.9%	62.6%	65.2%	66.8%	71.3%
為替レート	(円/USD)	111.15	108.66	106.25	112.89	133.17	131.05
営業利益	(百万円)	16,927	13,823	3,081	3,222	2,344	5,500
営業キャッシュフロー	(百万円)	12,255	4,362	3,367	7,615	2,552	
投資キャッシュフロー	(百万円)	▲ 1,102	▲ 2,544	▲ 1,943	▲ 954	▲ 308	
フリーキャッシュフロー	(百万円)	11,153	1,817	1,423	6,661	2,243	
財務キャッシュフロー	(百万円)	▲ 1,136	▲ 1,039	▲ 1,032	▲ 826	▲ 412	
現金及び現金同等物	(百万円)	15,261	16,010	16,385	22,188	23,998	
中間配当金※	(円/株)	100	150	100	100	150	150
期末配当金	(円/株)	100	150	100	100	-	未定
配当性向	(%)	6.9%	12.7%	32.9%	26.9%	-	-

※配当金に関する情報は、SECカーボン単体の数値です。

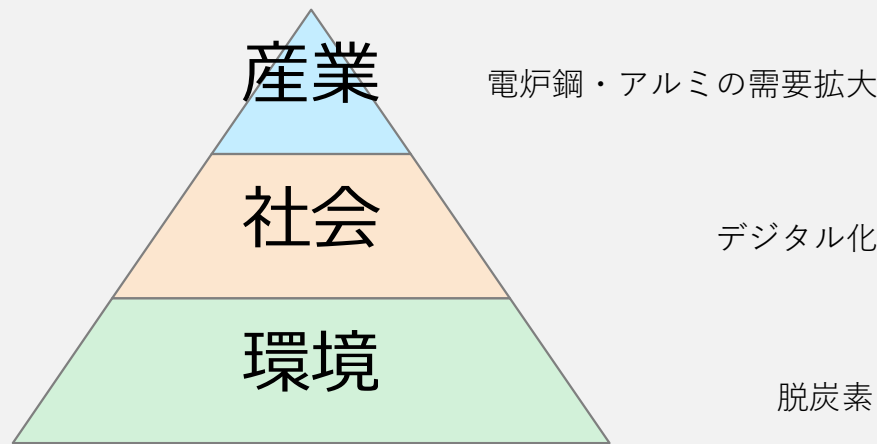
現行中計の概要

(第8次中期経営計画：2021～2023年度)

わが社が想定する10年後の社会

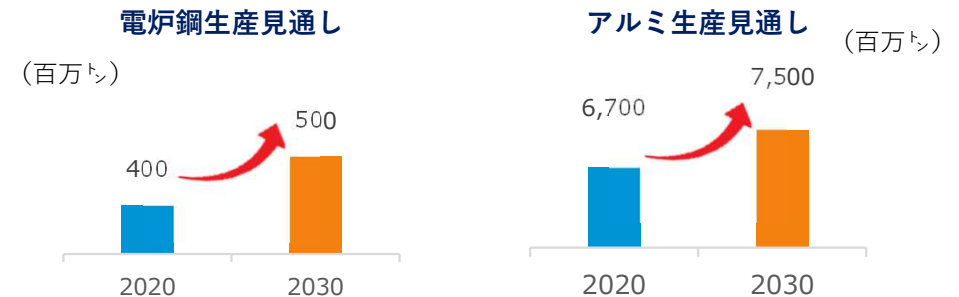
電炉鋼・アルミの需要拡大、デジタル技術の高度化、カーボンニュートラルの加速を想定
 ➡脱炭素を背景とした電炉鋼及び軽量素材であるアルミへの転換等が事業上の好機に

世界の構成要因



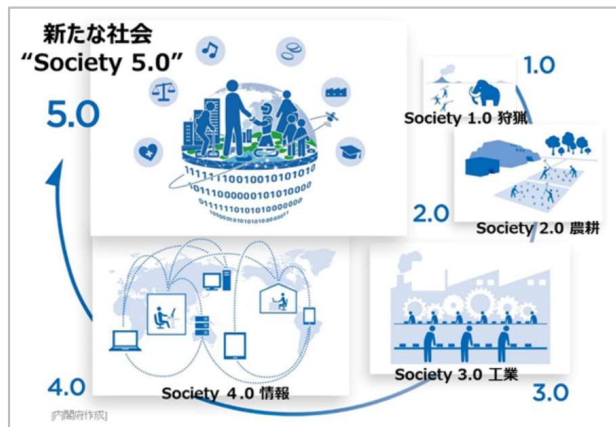
電炉鋼・アルミの需要拡大

- ✓ 高炉鋼から電炉鋼への転換
- ✓ 軽量化素材であるアルミへの転換



デジタル化

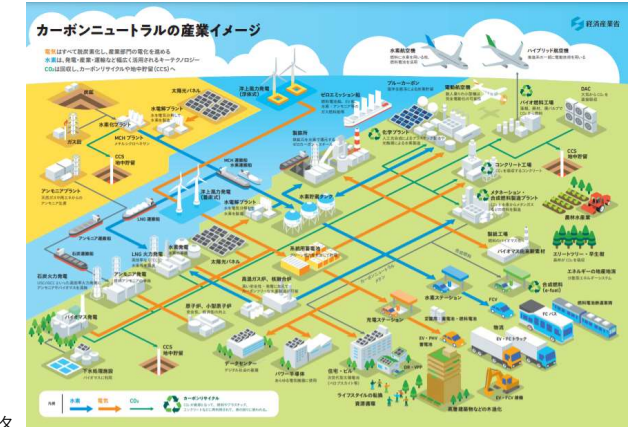
- ✓ 高効率で経営指標が見やすいスマートファクトリー
- ✓ 業界を巻き込んだ産業DX



出典：内閣府 Society 5.0

脱炭素

- ✓ 化石燃料型社会からCO₂排出ゼロ社会への転換
- ✓ グリーンサプライチェーンの構築



－ トランスフォーム2023 成長軌道へ －

○目指す企業像（ミッション）

- ・ 世界から信頼され成長し続けるカーボンメーカーとして地球環境を大切にし社会の発展に貢献する

○2023年のあるべき姿（ビジョン）

- ・ キャッシュの安定創出：最適な製品構成に基づきキャッシュが安定的に創出されている
- ・ 成長投資の実現：将来成長に繋がる投資が計画的に実現されている

○組織共通の価値観（バリュー）

- ・ 迅速果断・奮励努力

○基本方針

●成長基盤の強化

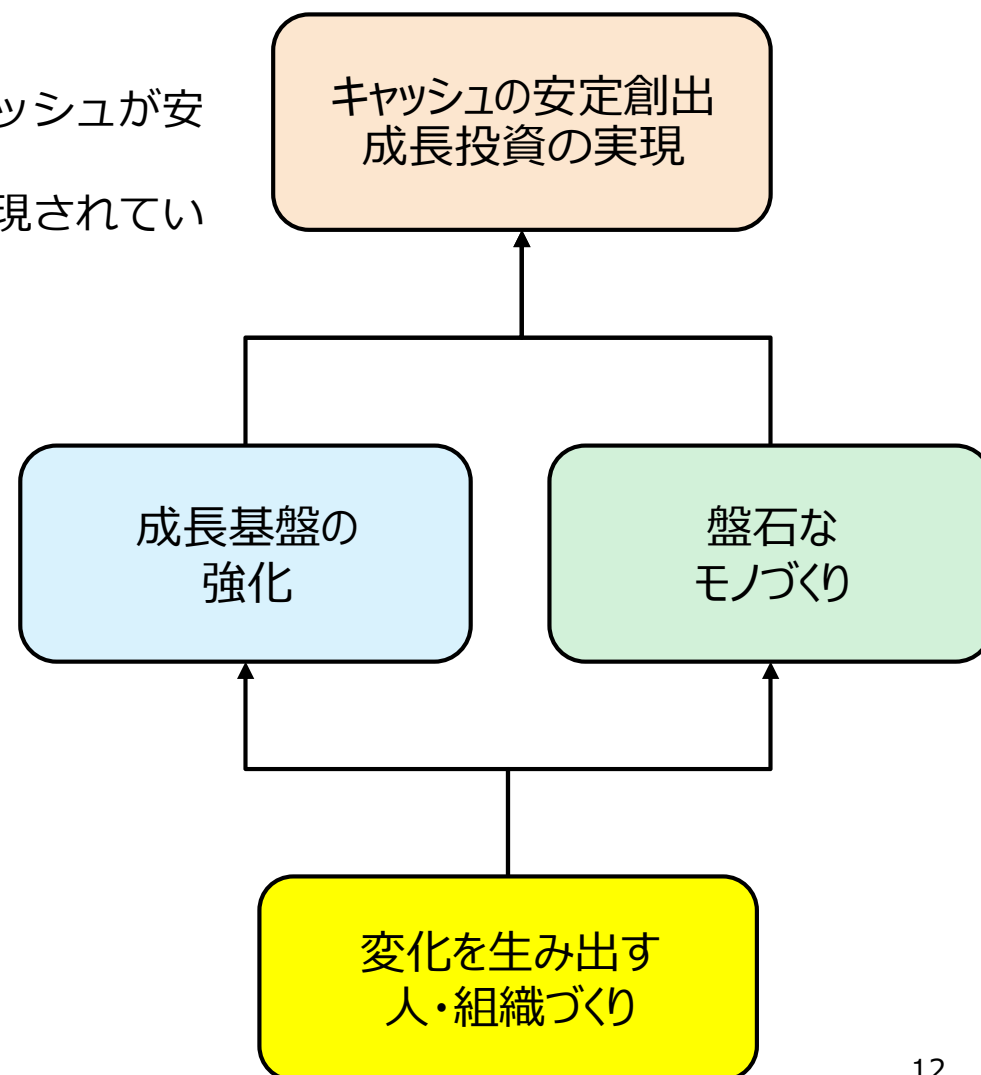
- ▶ 製品別ビジネス戦略、トータル戦略

●盤石なモノづくり

- ▶ 品質づくり（品質強化、ラボ設備検証）
- ▶ 設備管理（最適な設備投資、設備保全）
- ▶ 原料調達改革（新原料活用）
- ▶ コスト削減（新たなアプローチ）

●変化を生み出す人・組織づくり

- ▶ 人材力（変化への対応力向上）
- ▶ 組織力（意識改革）



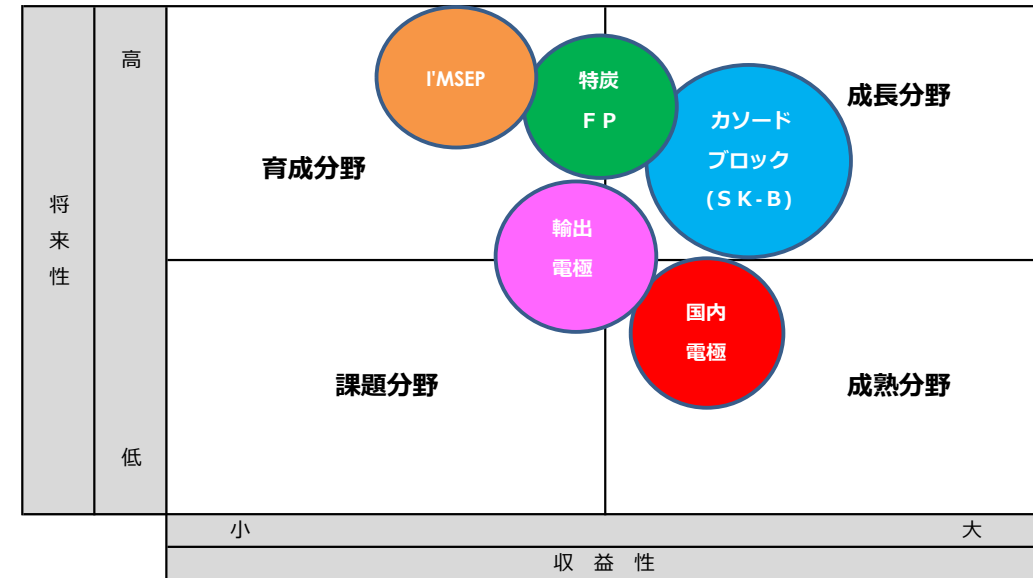
現行中計における製品別ポートフォリオの考え方

現行中計における製品別ポートフォリオの考え方

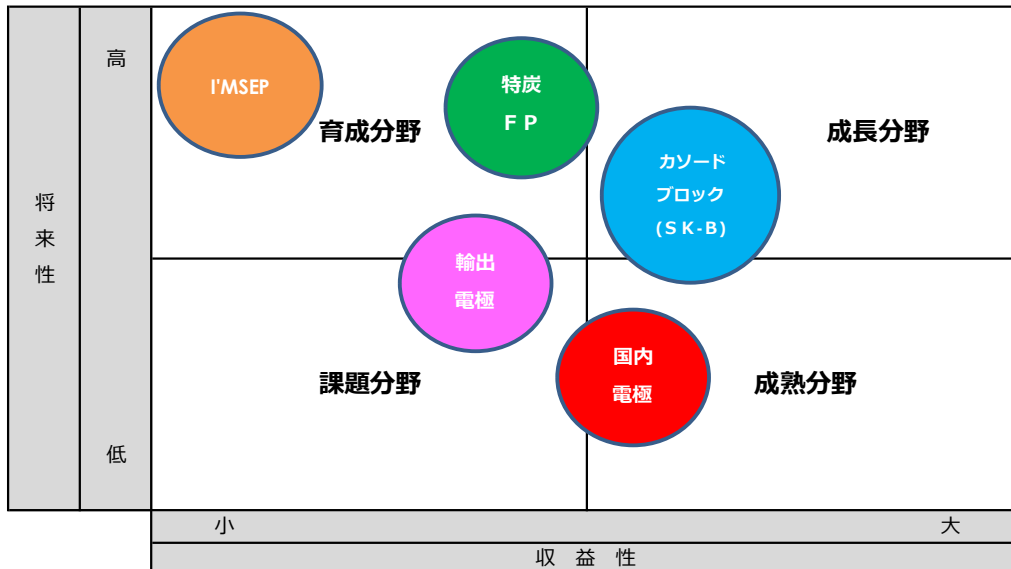
ビジネス分野	方向性
カソードブロック (SK-B)	・ アルミ電解炉のCO2排出抑制に貢献する黒鉛化カソードブロック世界市場でのシェア40%の堅持
黒鉛電極	・ CO2排出抑制に貢献する電炉鋼が拡大する中、市場耐性と採算が担保された安定的製販体制の確立と拡販
特炭 & FP	・ 既存ビジネスにおける当社の得意分野のシェア拡大 ・ 特殊処理品の拡販 ・ 他社と差別化した製品・技術の創造 ・ 原料・設備の最適化による安定生産
I'MSEP※	・ カーボンニュートラルへの取組み（二酸化炭素資源化）

※I'MSEPは溶融塩電解をコア技術とした研究開発に取り組む当社子会社です

製品別ポートフォリオ（将来像）

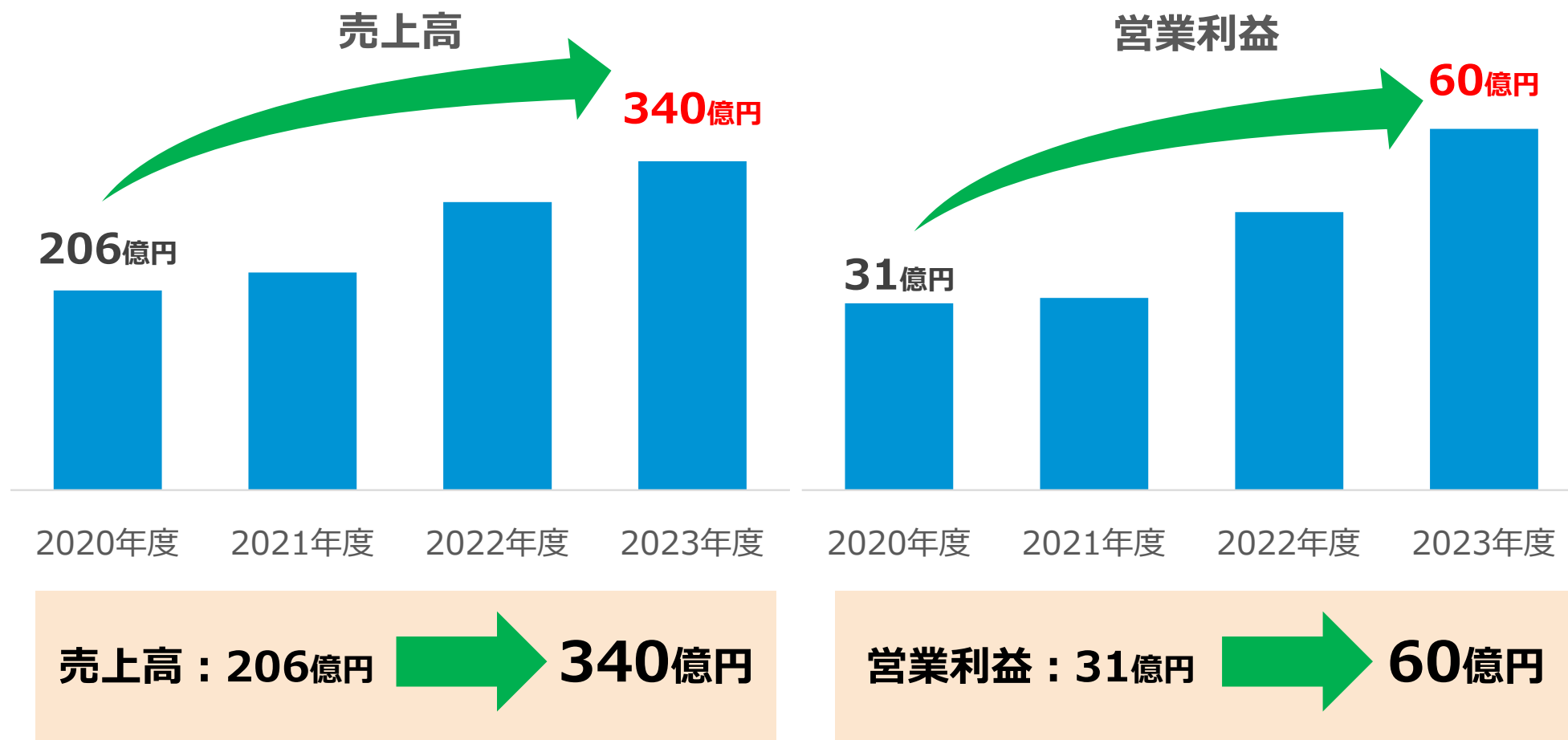


製品別ポートフォリオ（現状）



成長マトリックス

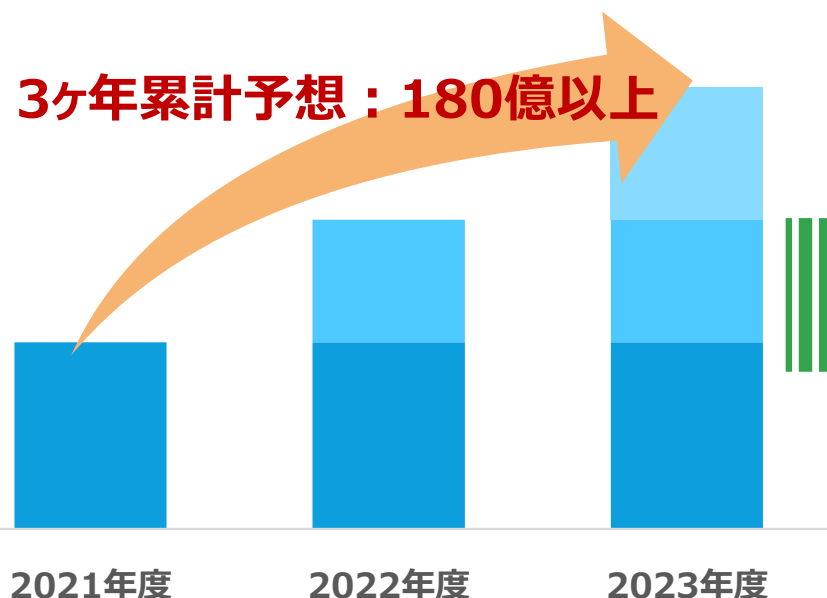
		市場	
		既存	新規
		市場浸透	市場開拓
製品	既存	カソードブロック (SK-B) 国内電極 特炭・FP	カソードブロック (SK-B) 輸出電極 特炭・FP
	新規	カソードブロック (SK-B) 特炭・FP	I'MSEP (CO ₂ 資源化)
		製品開発	多角化



第8次中期経営計画最終年度には、売上高340億円、営業利益60億円を目指します。

ROE : 6.5%以上

営業キャッシュフロー



第8次中計投資方針

設備投資

- 設備更新関連(100億円以上)

成長投資

- 生産設備改善・増強関連
- 新規ビジネス育成関連

戦略投資

- 協業関連等

- 3ヶ年累計営業キャッシュフロー（180億円以上）を主な投資原資として見込んでいます（自己資金も活用）。
- 投資対象は、設備投資（黒鉛化炉新設工事、ファインパウダー増産設備新設工事等）だけではなく、将来の企業価値向上に資する成長投資や戦略投資も計画的に実施していきます。

世界から信頼され成長し続けるカーボンメーカーとして地球環境を大切にし、社会の発展に貢献する

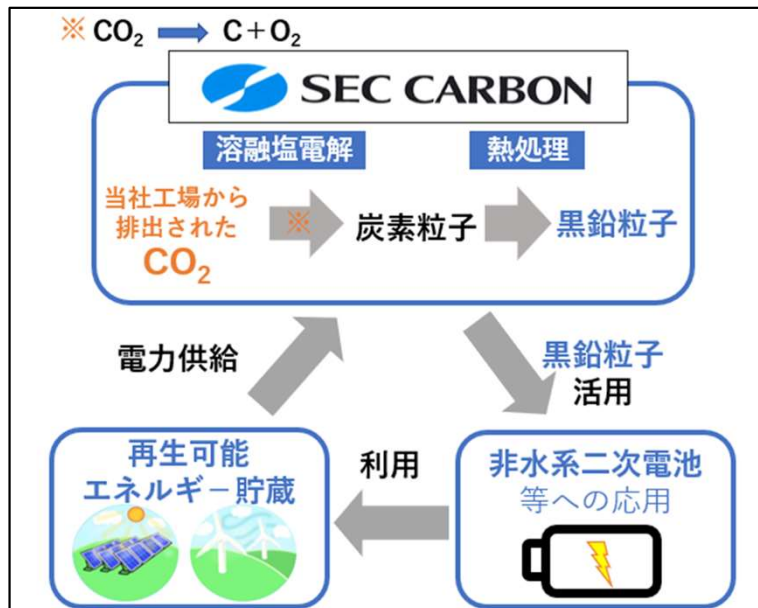
ESG	テーマ	マテリアリティ：重要課題	取組み内容
E 環境	気候変動	気候変動リスクへの対応	温暖化対策
		温室効果ガスの排出量削減	エネルギー原単位の削減
		再生可能エネルギーの活用	再エネ導入
	環境資源保護	カーボンリサイクルの推進	二酸化炭素資源化(黒鉛粒子)
		環境負荷軽減	環境調和型技術製品、有害物質管理、R E A C H規制対応、環境マネジメントISO、環境方針・報告・会計
		資源の循環利用	リサイクル率向上、グリーン調達
S 社会	製品責任	優れた製品サービス提供	品質方針、品質マネジメントISO、知的財産の創造・活用
		ステークホルダーとの連携	製品の安全性対策（製造物責任対応）、顧客満足度の向上、購買方針の徹底
	働きやすい職場実現	人材育成	QCサークル、技術交流（企業間・産学間連携）、求める人材像の明確化、教育研修の充実
		安全で健康な職場環境	安全衛生マネジメント（OHS）、メンタルヘルス、仕事と家庭の両立支援（育児・介護休業）、労使誠実対話
		人格尊重	人権啓発、セクハラ・パワハラ防止、多様な人材の活用、処遇の公正、雇用機会均等
	社会貢献	貢献活動の推進	社会への情報開示
G ガバナンス	企業統治の充実	ガバナンス	取締役会、監査役会の実効性、内部統制整備・運用
		コンプライアンス	経営理念・行動指針の徹底、理念・指針の取組開示・取組体制整備・教育研修・定着度評価、コンプライアンス体制の整備・運用
		リスクマネジメント	リスク管理体制整備・運用、危機管理体制整備・運用
		情報開示	情報開示指針の確立・徹底、インサイダー対応

カーボンニュートラルへの挑戦

二酸化炭素（CO₂）からパウダー状の黒鉛を製造する独自の製法を開発 二酸化炭素排出削減に向けた取組みを進めていく

二酸化炭素を原料とする炭素材料を 非水系二次電池へ応用する研究開発

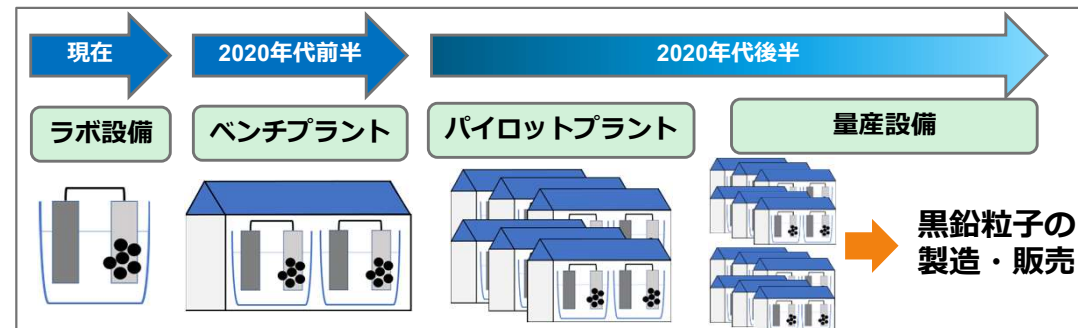
「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」が宣言されて以来、「二酸化炭素排出削減」に加えて「二酸化炭素資源化」がより一層強く求められています。そこで、本技術では二酸化炭素を原料とし、アイ・エムセップ（当社が51%出資する子会社。熔融塩電解技術を用いた大学発ベンチャー企業）が基本技術を有する熔融塩電解技術を利用して炭素粒子を製造し、これをSECカーボンが適切に熱処理を施し、黒鉛粒子として提供します。この材料を産総研の協力を得ながら非水系二次電池材料に活用することで二酸化炭素を資源化することが可能になります。



特許技術に関する SECカーボンの今後の取組み

i) 黒鉛粒子の製造

2020年代前半にベンチプラント、2020年代後半にパイロットプラントの立ち上げ、さらには量産設備の稼働につなげて、黒鉛粒子の製造・販売に取り組みます



ii) 二酸化炭素資源化

今後はSECカーボンの京都工場、岡山工場から排出される二酸化炭素を原料とし、黒鉛粒子製造に取り組みます。将来的には、日本各地の工場から排出される二酸化炭素を対象に、今回の技術に応用すべく研究してまいります

当社は国内外のカーボンニュートラル実現に向けた動きを見据えながら、世界から信頼され成長し続けるカーボンメーカーとして地球環境を大切にしながら社会の発展に貢献するべく、一層の省エネルギーに努めると共に、二酸化炭素の排出削減に向けた取組みを進めていきます

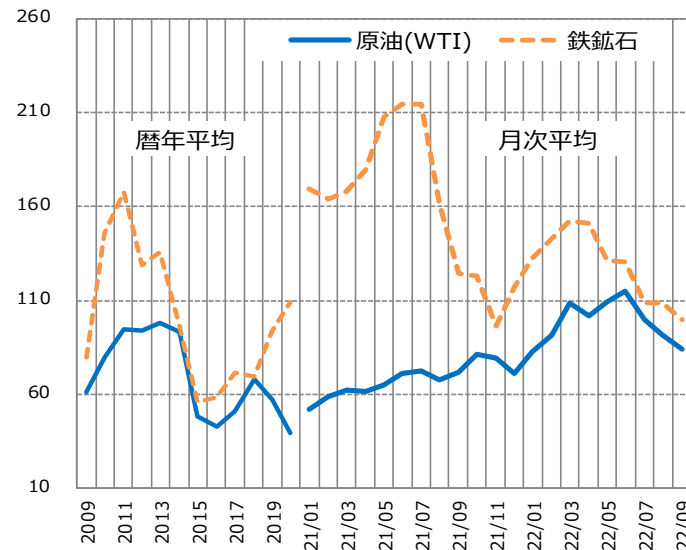
アイ'エムセツプは溶融塩電解技術を用いた大学発ベンチャー企業で、当社が51%出資する子会社です

名称	アイ'エムセツプ株式会社
所在地 本社 研究開発部	京都府京都市下京区中堂寺町134番地 京都府京田辺市興戸地蔵谷1番地 同志社大学京田辺キャンパス内 D-egg303号室
代表者	代表取締役 伊藤 靖彦
事業内容	溶融塩電解技術を用いた新材料・新素材の研究開発、技術指導・技術アドバイザー業務
資本金	3,500万円
設立年月日	2006年4月6日

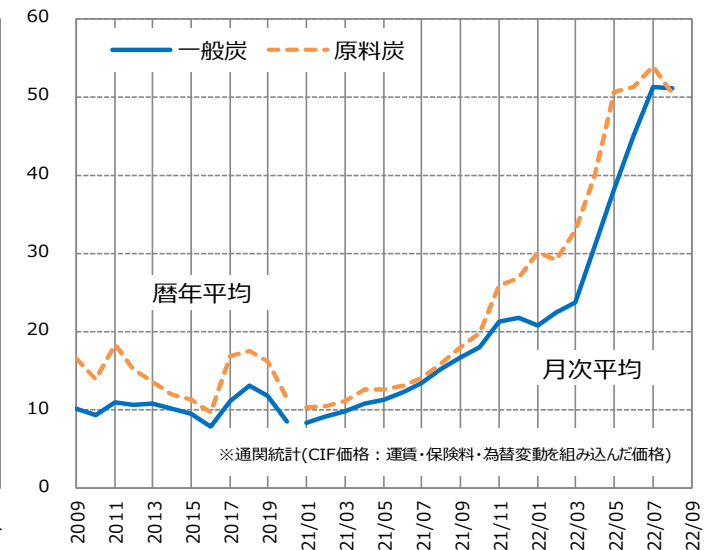
ご参考：マクロ経済指標

世界経済は、コロナ禍から緩やかに持ち直す兆しがあったが、ロシアによるウクライナ侵攻により、エネルギー等の物価高が進んでいる。欧米での利上げ実施により日本との金利差が拡大、急激な円安ドル高の進行が原材料等の輸入コスト高に拍車をかけている。今後、世界景気の更なる減速が予測され、先行き不透明感が強まっている。

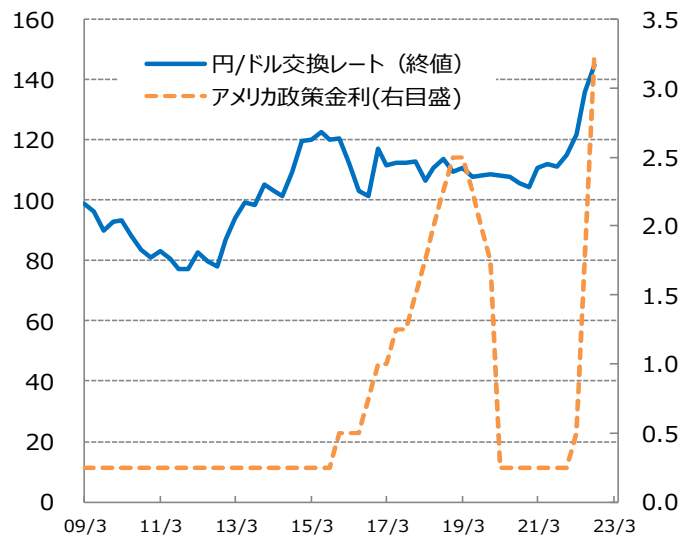
● WTI原油価格（\$/barrel）、鉄鉱石価格（\$/MT）



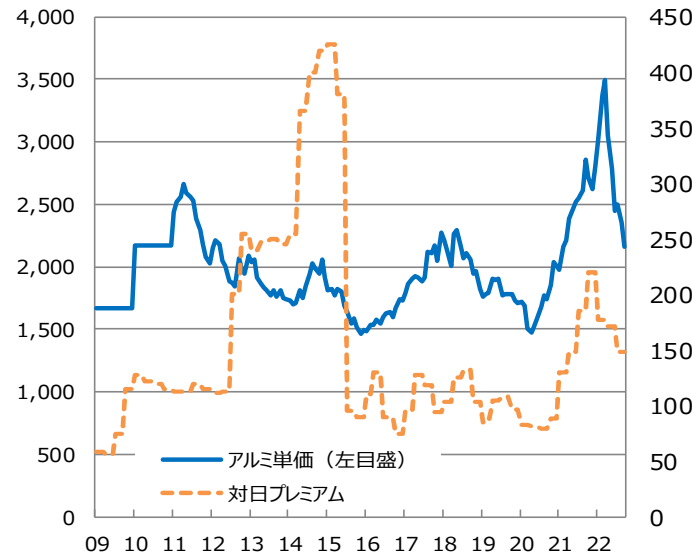
● 一般炭、原料炭（千円/MT）



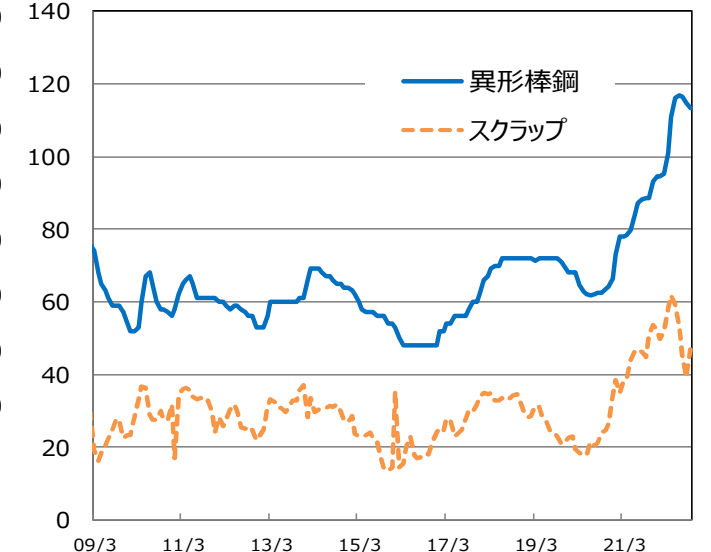
● 為替レート（円/ドル）、アメリカ政策金利（%）



● アルミ価格 LME単価と対日プレミアム（\$/MT）



● 国内異形棒鋼価格、スクラップ価格（千円/MT）



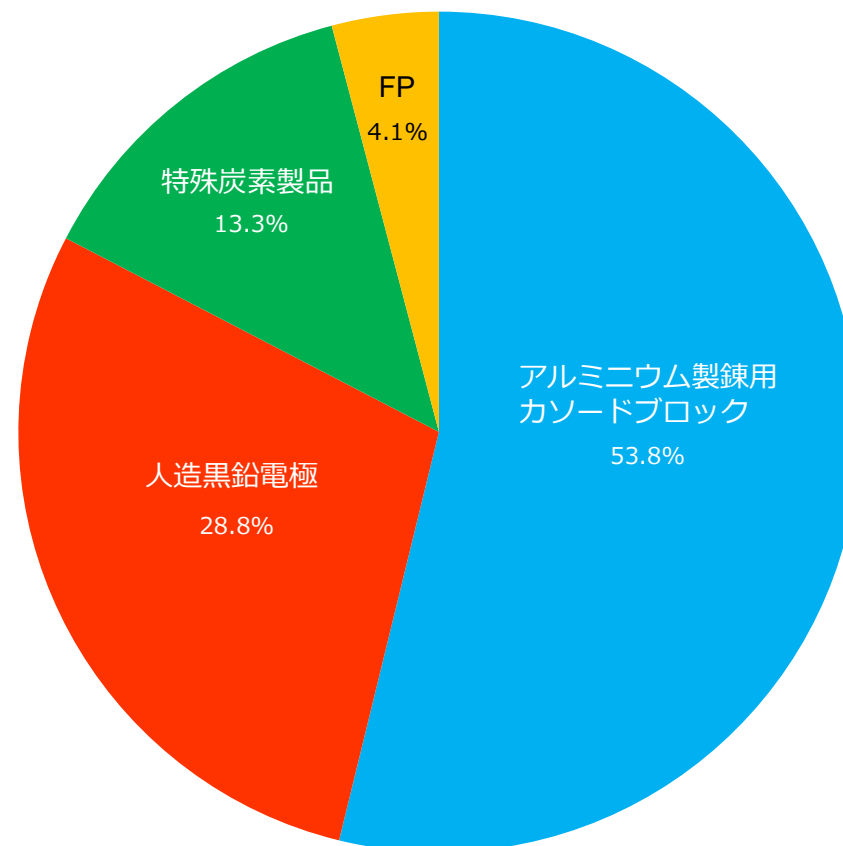
(参考資料) 会社概要

- SECカーボンは1934年（昭和9年）に製鋼用人造黒鉛電極の専門メーカーとして創業。
- 以来、確かな技術力を礎に、「アルミニウム製錬用カソードブロック（SK-B）」「特殊炭素製品」「ファインパウダー（FP）」の生産も手掛け、カーボンテクノロジーの進化を牽引してきました。
- 中でも「アルミニウム製錬用カソードブロック（SK-B）」は業界最高品質の評価を受けています。その現状に満足することなく、今後も品質の向上、研究開発の強化、人材育成、内部統制の確立などに積極的に取り組み、業界内外で存在感を発揮し続けます。

会社概要

社名	SECカーボン株式会社（SEC CARBON, LIMITED）
本社所在地	兵庫県尼崎市潮江一丁目2番6号 JRE尼崎フロントビル6階
事業所	本社：兵庫
	工場：京都・岡山
	事務所：東京
	営業所：名古屋
設立	1934年（昭和9年）10月23日
営業品目	アルミニウム製錬用カソードブロック（SK-B）
	人造黒鉛電極
	特殊炭素製品
	ファインパウダー
資本金	59億円（2022年3月31日現在）
従業員数	254名（2022年3月31日現在）
売上高（連結）	229億19百万円（2022年3月期）
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場（証券コード5304）

売上高構成比（2022年3月期）



- 1934年（昭和9年）の創業から88年、現在のSECカーボンの姿になるまでには時代ごとにさまざまな出来事がありました。
- しかし、激変する中でも、絶対に変わらなかったもの、それはモノづくりにかける熱い想いです。常に時代の一步先を見つめ、社会に必要とされるものを送り届けるべく、情熱をもって取り組んできました

- 
- 1934年 アーク炉用の電極製造を目的として、昭和電極株式会社を創立、設立と同時に鳴尾工場（1971年西宮工場に呼称変更、1975年閉鎖）を設置
 - 1935年 東京営業所（1944年東京事務所に呼称変更）を設置
 - 1946年 戦災により焼失した工場を再建、人造黒鉛電極の製造を開始
 - 1956年 各種炭素製品の販売加工等を目的として、東邦カーボン株式会社設立（現・連結子会社）
 - 1960年 名古屋出張所（1983年7月名古屋営業所に呼称変更）を設置
 - 1963年 株式を大阪店頭銘柄に登録
 - 1972年 京都工場（福知山市長田野工業団地内）建設着手
 - 1974年 本社を兵庫県尼崎市御園町に移転
 - 1974年 京都工場完成（西宮工場操業停止、全面移転完了）
 - 1984年 株式会社エスイーシーに商号変更
 - 1984年 大阪証券取引所市場第二部に上場
 - 1986年 協和カーボン株式会社と合併 合併により岡山工場を引き継ぎ、アルミニウム製錬用カソードブロック及び特殊炭素製品の製造を開始
 - 1992年 岡山工場西大寺（加工工場）稼働
 - 1998年 岡山工場牛窓の生産停止
 - 2006年 SECカーボン株式会社に商号変更
 - 2009年 本社を現在地（兵庫県尼崎市潮江）に移転
 - 2011年 京都工場に主としてアルミニウム製錬用カソードブロックを製造する工場を増設
 - 2013年 東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場統合に伴い、東京証券取引所市場第二部に上場
 - 2022年 東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第二部からスタンダード市場へ移行

経営理念、コンセプトマークについて

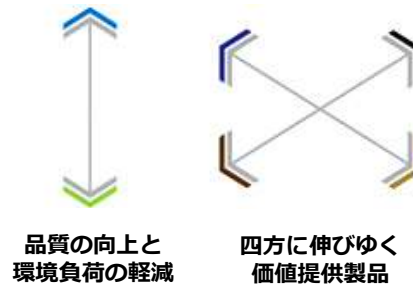
- 1934年（昭和9年）の創業から現在に至るまで、私たちはカーボンという素材に魅了され、その機能を活かし、日本の産業の発展に貢献してきました。今では、そのカーボンの結晶の如く、多角的にヴィジョンは広がっています。
- 常に品質の向上を図りながら、環境負荷は可能な限り減らし続ける。その想いを基本に4つの事業領域を追求し、新たな可能性を切り拓いていきます

経営理念

わが社は流動する変化に挑み、
無限の可能性を探求し、業界の最高峰をめざす

- わが社は需要家の要望に応える製品を創造する
- わが社は社員および株主の幸福を増進する
- わが社は社会の福祉発展に寄与する

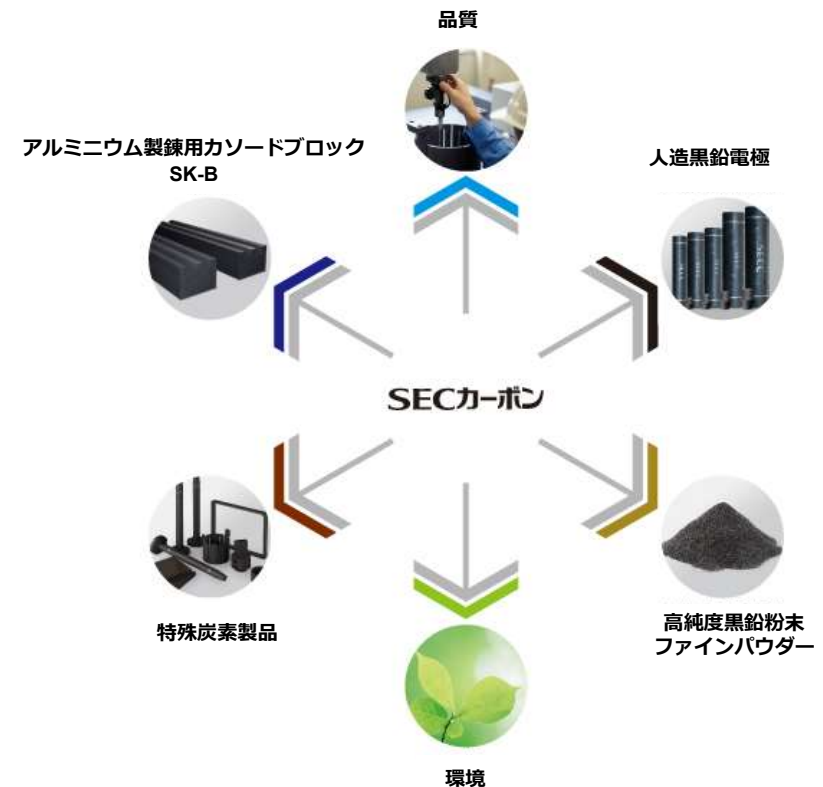
カーボンの結晶をモチーフとしたコンセプトマーク。上下の軸は品質向上を目指し、その一方で環境負荷は限りなく下げる、という理念を表しています。その上下軸を中心に、四方に伸びる軸は4つの事業を表し、バランスを取りながら成長し続ける事を表しています。このコンセプトを基本に、私たちは健全な会社運営に取組、これからも社会に広く貢献し続けます。



コンセプトマークについて

WITH THE PRIDE OF CARBON

カーボンを起点に 世界につながる



■ 独自の技術、生産体制から生まれる高機能製品で産業分野に貢献

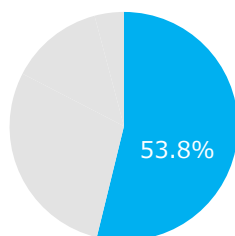
世界のアルミスメルターから
高い評価を受ける

アルミニウム製錬用 カソードブロック SK-B®



ブロック全体を黒鉛化したことで
高機能を実現した、カソードブロックの
グローバル・スタンダード

売上高構成比（2022年3月期）



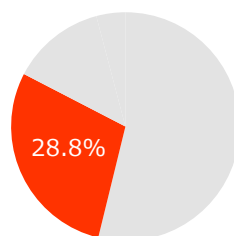
エコロジー社会に貢献し
鉄を支える

人造黒鉛電極



市場の主流である太物電極の開発を
常にリード。
炉の操業条件に合わせて、最適な
電極を提供

売上高構成比（2022年3月期）



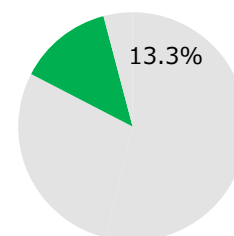
世界の最先端技術を支える
高付加価値製品

特殊炭素製品



黒鉛の持つ優れた特性を活かしながら、
様々な形状に加工。最先端分野や
宇宙航空分野でも活躍

売上高構成比（2022年3月期）



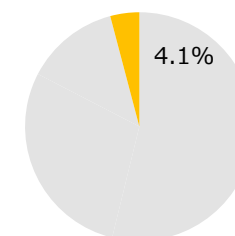
高純度かつ微細、豊富な
バリュエーションを誇る

ファインパウダー



徹底した素材研究で超高純度化を、
一貫生産体制で安定供給を実現した、
世界に誇れる高機能材料

売上高構成比（2022年3月期）



製品別の主な用途

アルミニウム製錬用カソードブロック SK-B®

アルミニウム製錬工場の陰極として

アルミニウム製錬工場の電解炉において、アルミナを電気分解する際の陰極（カソード）として用いられています。製錬の際、電気を大量に消費するため、良質のカソードブロックが常に求められています。世界的なアルミニウムの需要増を受けて、今後SK-Bはさらなる躍進が期待されています



人造黒鉛電極

電気製鋼炉の電極として

電気を用いて鉄スクラップを溶解し、建設現場で使われるH形鋼や棒鋼などを生産する電気製鋼炉。黒鉛電極は、その電気製鋼炉の電極として用いられています。炉の大型化が進むにつれ、太物電極へのニーズが高まる中、SECカーボンはその開発を常にリードし、今や世界各国の電気製鋼炉においてSECカーボンの人造黒鉛電極が使われています



特殊炭素製品

半導体や宇宙航空分野をはじめ、あらゆる産業の重要素材として

黒鉛の持つ耐熱性・熱伝導性・耐食性・潤滑性といった機能性に加えて、精密な機械加工が容易といった特性を活用し、様々な「形」にして製品化したものがSECカーボンの特殊炭素製品です。単独で、あるいは樹脂や金属の複合材料として、最先端の産業分野にまで活躍の場は広がっています



ファインパウダー

電池の原料や自動車塗料として

ファインパウダーとは、高純度黒鉛粉末のこと。それまで品質の均一化や安定供給に難があった天然黒鉛を含む各種黒鉛粉末に代わり、SECカーボンが独自に研究開発しました。リチウムイオン二次電池の電極材料など、最先端分野で活用されています

電池用	摺動材用
●リチウムイオン二次電池 ●リチウム一次電池 ●アルカリマンガン乾電池 ●マンガン乾電池	●ブレーキ材 ●オイルシール ●メカニカルシール
塗料用	電気用
●導電性塗料 ●光輝性材料 ●潤滑性塗料	●モーターブラシ

- SECカーボンの強みの一つが、高品質な製品を安定して供給できる生産体制。
- 拠点工場となる京都工場において一貫生産を行い、岡山工場にて特殊炭素製品の加工および特殊含浸を行っています

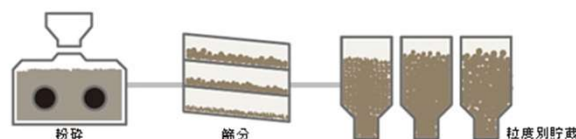
■ 原料

コークスの特長を活かし、様々な用途に応じた最適な原料を購入し、銘柄別に貯蔵します。



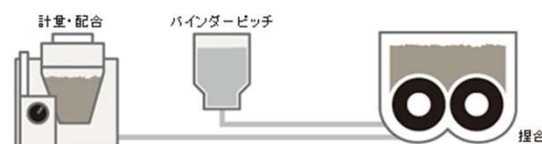
■ 粉碎・篩分

コークスは必要に応じて粉碎し、所定の粒度に篩い分けします。篩い分けしたコークスは、粒度別貯蔵庫に分別され、品質設計に基づく配合基準に従って計量配合します。



■ 捏合

計量配合されたコークスとバインダーピッチ(結合材)を捏合機にて混捏します。



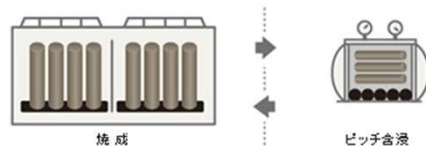
■ 押出成形

捏合物を押出しプレスにより成形します。成形機のノズルを交換することで、多様な形状、サイズに成形することが可能となります。



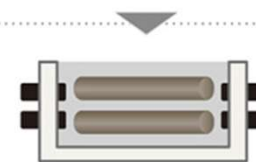
■ 焼成・ピッチ含浸

熱的安定性、機械的強度を増し、電気伝導性をもたらすために焼成を行います。また、ピッチ含浸を行い、再焼成することで組織を緻密にし、更に強度を高めます。



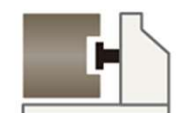
■ 黒鉛化

焼成品を超高温で熱処理することにより炭素質から黒鉛質に変化させ、優れた特性を得ます。



■ 加工

黒鉛化処理された素材をユーザー仕様に応じた形状、サイズに加工します。



SK-B

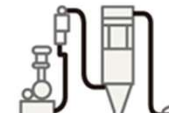
■ 加工



人造黒鉛電極

■ 粉碎・分級

微粉碎・分級設備で粒径1~100ミクロンレベルまで粉碎・分級します。



ファインパウダー

■ 加工

NC旋盤や大型マシニングセンタなどを用いて、ユーザーの仕様にマッチした加工を行います。



特殊炭素製品

岡山工場

検査・出荷

京都工場



京都工場は、SECカーボンの生産・製品開発の主力工場です。原料の粉碎から加工まで一貫した生産ラインには、業界トップクラスの大型設備を完備。ユーザーの仕様に合わせたきめ細かな設計能力も備えています。京都府福知山市の長田野工業団地に立地し、阪神圏からは車で約1時間の距離にあり、アクセスも優れています。

1994年（平成6年）に国際品質保証規格「ISO 9002認証」を取得し、2002年（平成14年）には「ISO9001・2000年版」に移行しました。50万m²という敷地の緑豊かな環境の中で、自然との共生を第一にした操業を続け、1999年（平成11年）には環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001認証」を取得しました

京都工場敷地内のSK-B一貫工場

当社が世界で高シェアを誇るアルミニウム製錬用カソードブロック（商標：SK-B）の供給増強要請に応えるため、京都工場の敷地内にSK-B製造用の一貫工場を2011年に建設いたしました。

当工場の稼働により、SK-Bの生産能力はこれまでの150%にまで増強されました。単一工場としては、世界最大級の黒鉛製品生産拠点です

新たな二次焼成炉の導入

2022年に京都工場で新たに二次焼成炉を導入しました。バッチ式処理方法を採用しているため、従来よりフレキシブルな生産に対応可能な設備となっています。

【特長】

- 生産調整が容易：需給に応じた生産が可能
- 製品に応じた温度調整：品質向上
- リードタイムの短期化：在庫削減に寄与

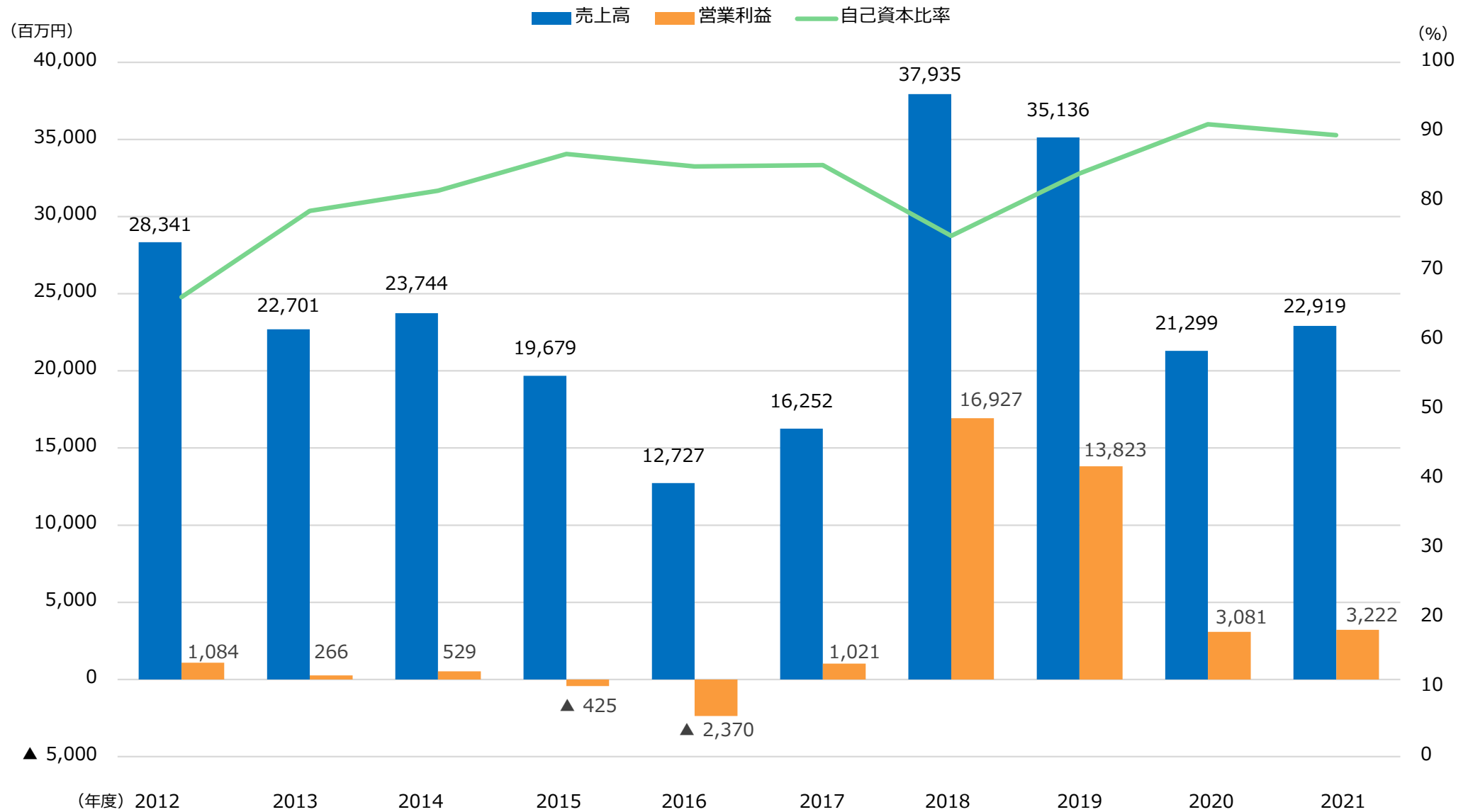
岡山工場



岡山工場は、特殊炭素製品の加工と特殊含浸に特化した工場です。製品によって加工精度、形状、特性が異なる特殊炭素製品の特性を考慮した生産体制を整備し、あらゆるユーザーニーズに応える様々な製品群を作り出してきました。

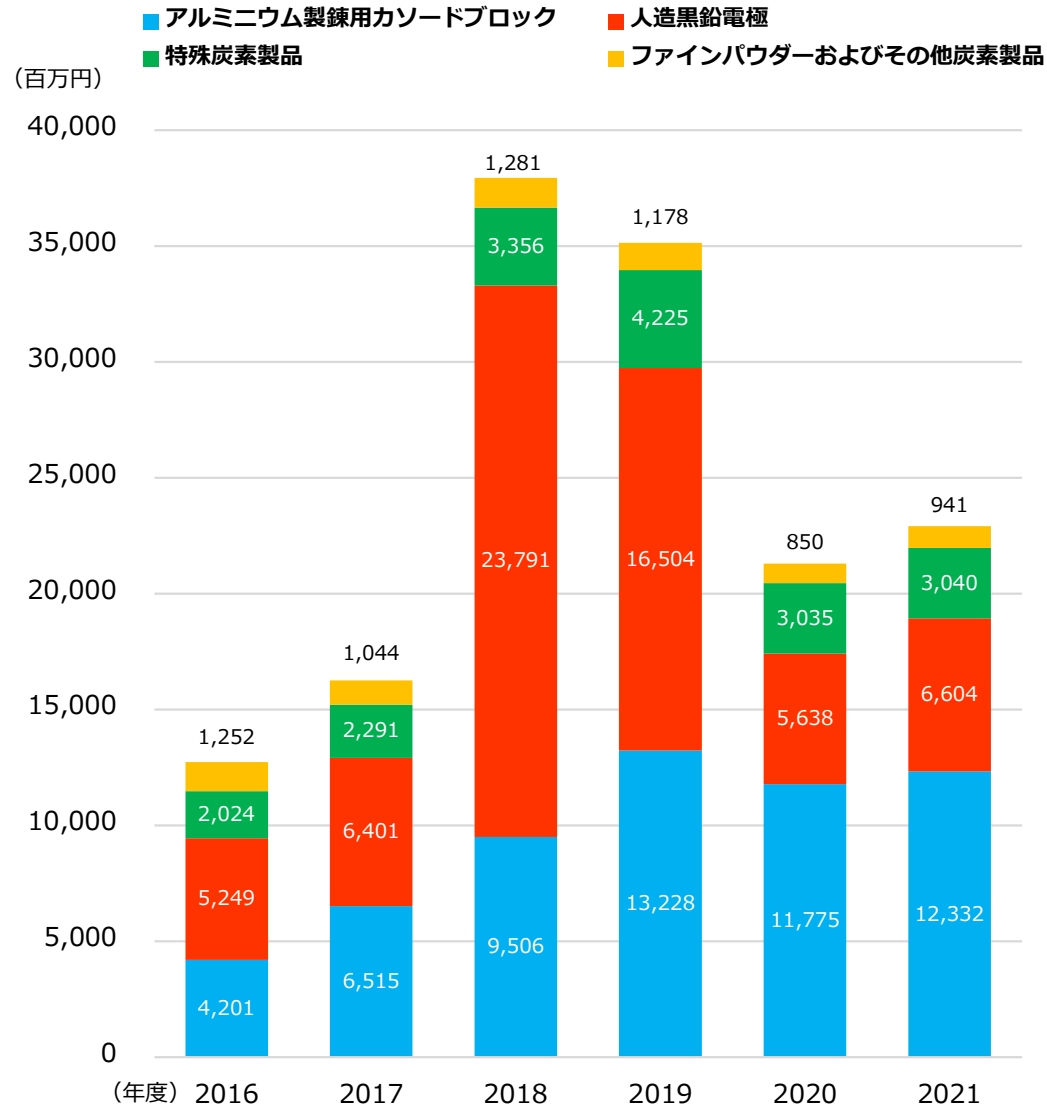
岡山市東部に位置し、瀬戸内海に面する13万m²の敷地を擁し、ここでも自然環境との調和を大切にしています

売上・営業利益・自己資本推移



製品別売上高・海外売上高推移

製品別売上高



海外売上高

